

キーボードの配色が文字入力速度と美的評価に及ぼす影響

羽田 裕哉

本研究の目的は、キーボード上のキーに色を付加し、文字入力速度と美的評価の両方を向上させることである。そのため、黒色のキーボードの母音と高頻度子音 5 文字 (K、N、R、S、T) が配色された。配色のあるキーボードを用いてタイピング課題を行うことで、文字入力速度が比較された。また、美的評価質問紙を用いることでキーボードの美的評価が比較された。

実験 1 では、(1) 配色のないキーボード、(2) 母音に赤を配色したキーボード、(3) 母音に赤、高頻度子音に緑を配色したキーボードという三つのキーボードが用いられた。それぞれのキーボードによる入力速度を比較した結果、母音に配色したキーボードの入力は、配色のないキーボードよりも速かった。一方で、2 色を配色すると、1 色を配色したキーボードよりも入力が遅くなる傾向が示された。また 2 色配色のキーボードは、1 色配色のキーボードよりもタイピングを習得するまでの時間が長いことが示唆された。美的評価に関しては、配色したキーボードは配色のないキーボードよりも「独創的な」と評価された。

実験 2 では、(1) 母音に赤を配色したキーボード、(2) 母音に白を配色したキーボード、(3) 母音に赤、高頻度子音に灰色を配色したキーボード、(4) 母音に白、高頻度子音に灰色を配したキーボードという四つのキーボードが用いられた。また、色とキーの対応付けをあらかじめ学習する条件 (学習あり条件) も設定された。各条件での入力速度を比較した結果、単語の入力速度に関しては、配色の条件や学習の有無による差はなかった。ただし、母音キーの入力速度に関しては、1 色配色のキーボードが 2 色配色のキーボードよりも速かった。またタイピングを習得するまでの時間は、配色の条件や学習の有無による差はなかった。美的評価に関しては、赤を含む配色のキーボードは白を含む配色のキーボードよりも「独創的な」と評価された。また、白と灰色の配色のキーボードは、赤と灰色の配色のキーボードよりも「統一感のある」と評価された。

以上の結果からは、入力速度に関して以下の 3 点が明らかとなった。1 点目は、赤もしくは白を母音に配色すると、入力速度が向上するということである。2 点目は、高頻度子音に灰色を配色すると、2 色配色のキーボードと 1 色配色のキーボードの間に差がなくなるということである。3 点目は、赤と緑の配色のキーボードは、赤の配色のキーボードよりも文字入力の習得に時間を要するということである。また、美的評価に関しては以下の 2 点が明らかとなった。1 点目は、赤を含む配色のキーボードは、配色のないキーボードや白を含む配色のキーボードよりも、「独創的な」と評価されるということである。2 点目は、白と灰色の配色のキーボードは、赤と灰色の配色のキーボードよりも「統一感のある」と評価されるということである。

これらの結果から、キーボードの配色に関して以下の 2 点の提言が可能である。第一に、文字入力速度を向上させるには、母音に赤もしくは白を配色することが効果的である。第二に、独創的なキーボードと評価されるには赤を含む配色が効果的であり、統一感のあるキーボードと評価されるには白と灰色の配色が効果的である。本研究では 2 色配色のキーボードの入力速度は、1 色配色のキーボードよりも向上することはなかった。しかし、2 色配色のキーボードは 1 色配色のキーボードよりも美的評価の一部が高かった。したがって今後は、入力速度が 1 色配色のキーボードと同様で、より美的評価が向上するような 2 色の配色方法を検討することが課題となる。